

社会福祉法人 緑会

令和 6 年度 事業計画

令和 6 年 3 月 25 日

緑 会 理 念

- | | |
|------------|------------------------|
| 仁 愛 | 家族に身になって病める人の心を大切にする |
| 信 頼 | 信頼されるに足る知識と技術を持つよう努力する |
| 貢 献 | 医療・保健・福祉を通じて地域社会に貢献する |

令和6年度テーマ

『利用者を支えるフレイル予防』

基 本 方 針

能登半島地震により、避難所生活や日常生活において制限された中での生活を過ごすことで、筋肉量が減少し、筋力や身体機能が低下（サルコペニア）する可能性がより高くなることが考えられる。それによってますます加齢に伴う筋力の低下や運動機能が衰えて要介護や寝たきりになる（ロコモティブシンドローム）ことにつながるようになります。

そのならない為にもフレイル予防することがとても重要となり、フレイル対策である3つの柱（栄養、運動、社会参加）を活かして、利用者の方々が安心して取り組めるような、職員が関わり見える化するなど、その人に合った支援を行うよう取り組みます。

重 点 目 標

1 フレイル予防の実施（見える化）

- ・栄養（食・口腔機能）摂取するための状態を把握し、食欲増進や口腔機能の向上などを行いながら、十分にバランスよく食事が取れるよう取り組む
- ・運動することで筋肉量を維持し、身体機能が維持できるよう取り組む
- ・社会参加できるよう、その人に合った取り組み考え、意欲をもって実施できるよう工夫する

2 認知症・障がいを持つ方への対応

- ・ユマニチュード（その人らしさ）によるケアの推進
- ・認知症や障がいがあっても、その人に合わせたケアを行い穏やかに過ごせる時間をつくる

3 利用者支援のための職員の資質向上と連携を強化する

- ・それぞれの職員が情報収集や研修で学んだことを共有し、職員全体の資質向上につながるよう、連携する
- ・利用者に合わせた支援を、職員がチームとして考え協力して対応できるよう、工夫する

実施施策

1 フレイル予防の実施（見える化）

高齢者が要介護状態になる要因は、サルコペニア（加齢による筋力低下症）から、ロコモティブシンドローム（移動機能の低下）となり、フレイル（身体的・精神的・社会的衰弱）状態になることが考えられる。

その予防のためには、利用者の方々にフレイル対策（栄養・運動・社会参加）ができる環境や機会をつくり、利用者自身が意欲を持って実施できるよう、その人に合った取組みを考え、職員が一体的に支援できるよう、見える化し評価、見直し、実践して効果的に行っていくことが大切である。

2 認知症・障がいを持つ方への対応

高齢の方は加齢に伴う身体の変化だけでなく、認知症による日常生活に支障が出てくることがある。また障がいがある方も高齢による機能低下によりますます、日常生活に支障が出てくることが考えられる。それに対応するためにも、認知症の理解や障がい特性の理解をし、その人に寄り添い、支えられるよう協力してサービスが提供できるよう工夫して対応する。

3 利用者支援のための職員の資質向上と連携強化

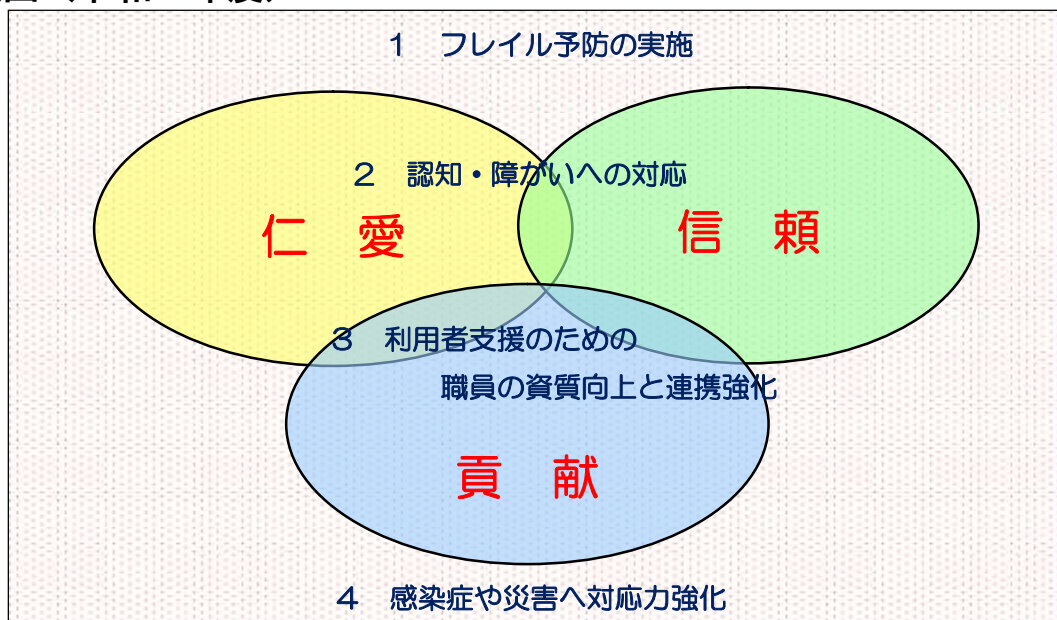
利用者の状態に合わせた支援を行うためにも、一人一人を観察し、持っている能力を活かせるように、その人に合ったサービス提供するための内容を考え、チームとして対応できるように協力する。

それぞれが学んだ事や知識を共有し、実践で生かすことで利用者の方々だけでなく、職員どうしの連携やスキルアップにつなげ、法人全体のサービス向上につなげる。

4 感染症や災害への対応力強化

能登半島地震の経験を活かせるよう、実際の体験を参考にしながら、BCP（事業継続計画）の推進とその時に職員一人一人が何をすべきか考えて行動できるよう、感染症や災害時の訓練や準備を日頃から実施して、安定して法人運営ができるよう準備する。

事業実施図（令和6年度）



1. 各種会議・委員会一覧

【 えんやまグループ 】

名 称	開催日時	内 容
法人会議	毎週木曜日 8:00～9:00	グループ内で経営や運営上検討すべき課題の検討や制度改正、雇用状況等の共通理解を深める
グループ運営会議	毎月最終火曜日 13:30～15:00	理事長以下グループ内各部署長・課長級の職員が参加し、事業運営や課題について検討する。

【 緑 会 】

名 称	開催日時	内 容
緑会運営会議	毎月最終月曜日 12:45～13:45	法人全体の経営・運営に関すること
衛生委員会	毎月最終月曜日 12:30～12:45	職員の衛生・安全・健康の確保・職場環境に関すること
千寿苑業務会議	第1・3週月曜日 12:30～13:00	施設全般の運営・管理等に関すること施設全般における業務全般・苦情に関すること
入居検討委員会	毎月最終金曜日 14:00～15:00	施設入所決定等に関すること
【新設】 生産性向上委員会	奇数月第1金曜日 12:30～13:00	現場における課題を抽出及び分析した上で、各事業所の状況に応じて利用者の安全並びに介護サービスの質の確保及び職員の負担軽減に資する方策を検討する
安全・感染対策委員会	毎月第2火曜日 12:30～13:00	リスクマネジメントの手法を用い、事故（転倒・誤嚥・誤薬・異食・その他の事故）の防止対策と事故が発生した場合、その分析や対応、再発防止のための対策を検討、実施することや、感染症及び食中毒の予防並びに蔓延の防止対策や環境衛生等の改善についての検討、実施
合同栄養委員会	偶数月第2金曜日 12:30～13:00	施設で提供する食生活全般に関すること
地域活動委員会	偶数月第4金曜日 12:30～13:00	各施設単位、法人単位、そしてえんやまグループ全体の地域活動を担当し、企画の立案や提案、地域からの依頼等の調整を行う
防災委員会	偶数月第3水曜日 12:30～13:00	建物全体の防災計画、月例点検、避難訓練の計画と実施、災害時の対策に関
褥瘡対策委員会	奇数月第2金曜日 12:30～13:00	施設全般における褥瘡予防・対応に関すること
身体拘束廃止委員会	奇数月第3水曜日 12:30～13:00	施設内における身体拘束の廃止及び虐待防止のための取り組みの検討、実施に関すること

千 寿 苑

入所・短期入所生活介護

令和6年度テーマ：『利用者を支えるフレイル予防 ～サルコペニアの予防と改善～（見える化）』（部署：入所・短期入所）

目 標	計 画	方法・具体的な取組	備考
I. 筋力を落とさない	1. 対象者(各階 5 人)を決め、握力や立位保持(秒)などを評価して1年後の到達目標を設定し、目標に向けて運動を行う (目標例:移乗動作が継続できる 等)	(1) 対象者にあつた運動メニューを立て行っていく (2) 昼食前やレクリエーション時などに、職員が関わり、歌ったり手足の運動を行う (3) 3か月毎の頻度で測定し、BMIも確認した結果を、本人・職員間で共有して取り組む (運動について家族面会時などに伝える) (4) バーサルインデックスで ADL を評価し、LIFE に報告。経過的に推移を把握して次に繋げる	
II. 口腔内の清潔を保ち、誤嚥性肺炎を予防する	1. 口腔内の清潔保持と機能維持	(1) 口腔体操や口腔ケアなど、深く関わる機会を増やし、口腔機能の低下を予防する (2) 研修会を開催し、適切な口腔ケアの方法を学ぶ (3) 協力機関の助言・指導を受けて、口腔衛生の体制を整えていく	
III. 利用者の状態に応じた支援を行うため、資質向上をはかる	1. ユマニチュード(4 つの柱)を意識して関わるために、意見を出し合い、ケアに活かしていく	(1) 毎日ミーティング時に4つの柱を唱和する (2) 毎月、取り組みについての標語を作り、実践していく。実践後にとつたアンケートを基にミーティング時に話し合い、悪い点を改善していく	
IV. 感染症や災害への対応を準備しておく	1. 感染症が発生した時に、迷わず対応できるように練習をする 2. 地震の体験を基に、事故に繋がらないように環境を整備しておく	(1) 感染症に応じた物品を準備しておき、シミュレーション練習をする (2) フロア内の物品配置などを定期的に検討する	

令和6年度 年間稼働率目標等及び対策

1 年間目標登録者数・稼働率

入所目標登録者数 95名

短期入所稼働率 80%

(定員5人100%で年間延べ利用者数 1,825人)

2 介護保険法及び介護保険報酬改定及び加算追加予定項目等への対応

- ・ 口腔衛生管理の義務化への対応
- ・ 科学的介護推進体制加算の見直しがあり、その対応を行う。
- ・ 栄養マネジメント強化加算
- ・ 生産性向上推進体制加算

3 年間目標稼働率・加算項目の追加を達成するための具体的な方法

(箇条書きで、簡潔かつ根拠のある説明を記載のこと)

- ・ 入居者の登録者数・短期入所稼働率に関して、災害後の対応で帰宅困難者の受け入れを行っており、先が見通せない状況ではあるが、前年度同様入居者を優先する対応で95名の登録者を目指していく。短期入所に関して急性期病院への入院が多く、活用が難しい為、80%と設定した。
- ・ 口腔衛生管理として、歯科医師又は歯科医師の指示を受けた歯科衛生士による、介護職員に対する口腔衛生の管理に係る技術的助言及び指導を実施し、助言及び指導に基づき、入所者の口腔衛生の管理体制に係る計画の作成と必要に応じた定期的な計画の見直しを行う。
- ・ 科学的介護推進体制加算の見直しがあり、提出頻度が6ヶ月に1回→3ヶ月に1回へ変更された為、その対応を行っていく。
- ・ 栄養マネジメント強化加算は、管理栄養士の増員と、ミールラウンドの実施状況、LIFEへのデータ提出(3ヶ月に1回)も可能な状況である為。
- ・ 眠りスキャンの導入があり、生産性向上推進体制加算(委員会の開催、見守り機器の活用と年1回の業務改善のデータの提出)の要件を満たせる為。

令和6年度年間行事等事業計画書

部署名： _____ 入所 _____

月	事業（行事）	地域交流	ボランティア・見学
4月	・花見		
5月	・つつじドライブ ・苑内菜園苗植え		
6月	・紫陽花ドライブ(永光寺)		
7月	・夏祭り		
8月	・里山里海ミュージアム見学 ・採れた野菜でバーベキュー		
9月	・敬老会		
10月	・せんじゅえん食堂		
11月	・紅葉ドライブ(永光寺)		
12月	・バー寿		
1月	・苑内初詣		
2月	・節分(豆まき)		
3月	・ひな祭り (おはぎとお茶を提供)		

※注；計画する行事を含む事業については、別途「個別事業実施計画書」も作成すること。

開催日	研修内容	場所
4月	口腔ケアの基本的な方法及び口腔体操	2・3階デイルーム
5月	認知症の方への対応 (ユマニチュード：その方に応じたケア)	〃
6月	食中毒	〃
7月	職員の倫理、プライバシー	〃
8月	災害時の初期対応（火事・地震）	〃
9月	誤嚥～心肺蘇生①	〃
10月	感染症の種類と特徴（机上）①	〃
11月	感染症：発生時のシミュレーション練習②	2・3階フロアー
12月	看取り・精神ケア	2・3階デイルーム
1月	身体拘束と虐待①	〃
2月	高齢者の病気	〃
3月	誤嚥～心肺蘇生②、身体拘束と虐待②	〃

開催日	研修名	主催	会場	参加職員	参加費(上段) 交通費等(下段) (1人当たり)
	権利擁護	介護支援専門員協会		ケアマネ：達 一樹	-----
	認知症介護実践者研修	石川県		介護職：村尾 静香 介護職：古川 鮎佳	-----
	認知症介護実践リーダー研修	〃		介護職：野口 麻美	-----
	感染対策について	〃		感染災害等対策委員	-----
	身体拘束・虐待について	〃		高齢者虐待防止・身体 拘束廃止委員	-----
	介護職員等による喀痰吸引等 実施のための研修	〃		介護職：田中 志乃	-----
	介護支援専門員 更新研修 B	〃		相談員：小林 直樹	-----
	傾き・ずり落ち（食事の不良姿勢 に有効なシーティング）	高齢者施設看護師会		機能訓練：松田 陽司	-----
	看取りについて			看護または介護職	-----

デイサービスセンターせんじゅ

デイサービスセンターなでしこ

令和6年度テーマ:『フレイル予防～サルコペニアの予防と改善(見える化)』 部署:通所介護(せんじゅ・なでしこ)

目 標	計 画	方法・具体的な取組	備考
1. フレイル予防の実施(見える化)	<p>フレイル対策(栄養・運動・社会参加)</p> <p>その人にあった取り組み・職員が一体的に支援できるよう、見える化・評価・見直し・実践</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 握力測定・バーセルインデックス測定を行い、本人様が意識して訓練に取り組めるよう、本人様、CMにフィードバックする。3 か月ごとにモニタリングを行い、多職種で共有し、機能訓練計画書に反映し、評価・見直し・実践する。Lifeからのフィードバックも計画に反映する。 ・ 握力アップ体操を行う。 ・ 研修やミーティングを行い、残存機能を生かした支援を統一する。 ・ 静養時間が長い方は体調を確認しながら離床時間を延ばしていく。 ・ 食事摂取量低下、体重の変化2kg の増減等があれば見える化して栄養課に報告、連携する。 	
2. 認知症・障がいを持つ方への対応	<p>加齢・認知症・障がいによる機能低下に対応するために、チームとして対応し、認知症の理解や、障害の特性理解、その人に寄り添い、支えられるよう協力してサービスを提供する</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 見る、話す、触れる、立つの4つを継続。 ・ ミーティング時に認知症や障害の特性・その人に寄り添う対応などを全員で学習する。 ・ 「ひもときシート」など、わかりやすいシートを検討し、ケアの統一を行う。 	

令和6年度テーマ:『フレイル予防～サルコペニアの予防と改善(見える化)』 部署:通所介護(せんじゅ・なでしこ)

目 標	計 画	方法・具体的な取組	備考
3. 利用者支援のための職員の資質向上と連携を強化する	1人1人を観察し、持っている能力をいかせるようにその人に合ったサービス提供をするための内容を考え、チームとして対応できるように協力する。それぞれが学んだ事や知識を共有し、実践で生かすことで利用者だけでなく、職員同士の連携やスキルアップにつなげ、法人全体のサービス向上につなげる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研修、勉強会に参加、伝達、効果を話し合う。 ・ 成功事例の事例検討会を行う。 ・ ミーティング時に疑問点、気づき等を話し合う。 ・ チームとして対応できるように協力する 	
4. 感染症や災害への対応力強化	1人1人が何をすべきか考えて行動できるよう日頃から訓練・準備をして安定して法人運営ができるよう準備する	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝言ダイヤル、避難訓練(災害も含む)の実施。BCP訓練の実施。 ・ 感染症の勉強会の実施。 ・ 災害や感染時、迅速に情報共有ができるよう、職員間グループLINEの共有。 	

令和6年度 年間稼働率目標等及び対策

1 年間目標稼働率

せんじゅ $\frac{88\% \text{ (1日平均22名)}}{6153 \text{ 人}}$
(延べ利用者数)

(通所定員 25 人、年間開催日数日として、年間延べ人で 100%)

なでしこ $\frac{88\% \text{ (1日平均22名)}}{6754 \text{ 人}}$
(延べ利用者数)

(通所定員 25 人、年間開催日数日として、年間延べ人で 100%)

2 介護保険法及び介護保険報酬改定及び加算追加予定項目等への対応

科学的介護推進加算

3 年間目標稼働率・加算項目の追加を達成するための具体的な方法

(箇条書きで、簡潔かつ根拠のある説明を記載のこと)

- ・老人会の方々と交流兼見学会
- ・振替利用・利用日追加の提案を CM に行う
- ・デイサービスの特色をほほえみだよりに載せて CM に広報
- ・満足度調査で要望があったカラオケ大会などを行う

令和6年度年間行事等事業計画書

部署名： せんじゅ

月	事業（行事）	地域交流	ボランティア・見学
4 月	お花見ドライブ		
5 月	新緑ドライブ		
6 月	あじさい湯	保育園児との交流会	
7 月	買物ツアー		
8 月	せんじゅ夏祭り	千寿苑夏祭り	
9 月	敬老会 敬老マッサージ		
10 月	運動会		
11 月	紅葉ドライブ		
12 月	忘年会		
1 月	初詣		
2 月	もちつき		
3 月	グループデイ 國分との交流会	グループデイ 國分との交流会	

※注；計画する行事を含む事業については、別途「個別事業実施計画書」も作成すること。

令和6年度年間行事等事業計画書

部署名： なでしこ

月	事業（行事）	地域交流	ボランティア・見学
4月	お花見ドライブ 桜湯		
5月	母の日カーネーションプレゼント しょうぶ湯		
6月	生け花 あじさい湯	老人会との交流会	
7月	初夏ドライブ 笹の葉湯	千寿苑夏祭り	
8月	法話 ひまわり湯		
9月	敬老会 りんどう湯	一本松奉仕作業	
10月	あさひ保育園児との交流会 オリーブ湯	あさひ保育園児との交流会 徳田祭り	
11月	紅葉ドライブ さざんか湯		
12月	忘年会 ゆず湯		
1月	初詣 新年会 松湯		
2月	バレンタインコンサート 梅湯		
3月	ひな祭りの集い 菜の花湯		

※注；計画する行事を含む事業については、別途「個別事業実施計画書」も作成すること。

やくしの里

目 標	計 画	方 法・取 組	備考
1. 筋力維持に努める	1. 筋力低下予防に努める (1) 下肢筋力低下予防 足上げ運動(ハードル歩行) イキイキ体操の実施 (2) 天気の良い日の坂道昇降散歩 (3) 年間を通しての畑仕事 (4) 歩行速度・握力測定 2. 嚥下機能の維持に努める	(1) (2) 転倒リスクのある利用者を対象とし毎日行えるようにチェック表の記録実施 歩行状態についてミーティング時に情報共有する (3) 畑の年間スケジュール表作成 (4) 4月に基本能力測定を行い、年4回の測定とグラフ化して掲示 毎食事時の嚥下状態確認、口腔ケア時に義歯や口腔内状態確認を行う	
2. その人らしさを受け止め、穏やかに過ごす	1. ユマニチュードの推進ケア (1) 利用者の目線に立ち、穏やかにやさしく常に利用者の事を思っている事を意識する (2) 利用者とのコミュニケーションを取りながら見る、触れる機会をつくる (3) 日常生活を通して職員と共に行動する時間を持つ	(1) (2) 1日1回は利用者と席につきコミュニケーションをとる (3) 職員と共にシーツ交換、自室の掃除、ごみ出しを行う	
3. 職員の資質向上と連携を強化する	1. 勉強会の実施 (1) 認知症 (2) 外部研修会参加 2. 職員間の連携を強化する	1 (1) 認知症の方のケアについてどの様に対応したら良いか職員全員で検討し実践する (2) 外部研修会に参加後、ミーティング時に発表行う 2 ミーティング時に利用者一人一人の意見交換と情報共有を行う	
4. 感染症や災害への対応強化	(1) 感染蔓延防止に努める ・ 感染時の初期対応力の強化 ・ 感染対策の勉強会 (2) 災害に備える事で介護サービスを継続する	(1) ・シミュレーションの実施・物品確認 ・感染対策勉強会(4・12月) (2) 訓練実施(断水、停電) 物品・備蓄品の確認(年1回) BCPの勉強会	

令和6年度 やくしの里年間稼働率目標等及び対策

1 年間目標稼働率

入居	99%
(延べ利用者数	9 人)

(入所定員 9 人として、年間延べ 3,285 人で 100%)

2 介護保険法及び介護保険報酬改定及び加算追加予定項目等への対応 認知症専門ケア加算 (I)

3 年間目標稼働率・加算項目の追加を達成するための具体的な方法

(箇条書きで、簡潔かつ根拠のある説明を記載のこと)

令和5年度 ・入退所にてキーパーソンが遠方に為 10 日間

・入院 1 名 3 日間

・地震避難 1 名 33 日間

年間延べ 3285 人で 100%→3245 人 (2 月現在の見込み) 98%

100 歳 1 名 要介護 3 3 名 (1 名千寿苑入居申し込み) の利用者より
入院や入退所を見込んで 99%となる。

令和6年度年間行事等事業計画書

部署名：やくしの里

月	事業（行事）	地域交流	研修	ボランティア・見学
4月	花見		感染	S 11.4.1 細川朝子様 88歳
5月	個別支援 避難訓練 菖蒲湯	大泊朝市	身体	S 11.5.12 松田米子様 88歳
6月	個別支援	大泊朝市		S 12.6.21 大野久直様 87歳
7月	七夕まつり 災害訓練・停電 ワックス	大泊朝市		
8月	花火 流しそうめん	大泊朝市	身体	S 10.8.10 細川良男様 89歳
9月	個別支援 お彼岸おはぎ作り 災害訓練・断水	大泊朝市		
10月	家族旅行 避難訓練	大泊朝市	認知	
11月	紅葉ドライブ ワックス	大泊朝市	身体	
12月	クリスマス会 ゆず湯 おせち作り・年越しそば		感染	
1月	おせち提供 正月遊び 七草粥（			T13.1.8 竹藤みす江様 101歳 S25.1.15 大久保成子様 75歳
2月	節分		身体	S 9.2.2 久保泰子様 91歳 S 16.2.9 塚榮子様 84歳
3月	ひな祭り お彼岸おはぎ作り ワックス	大泊朝市		S 19.3.29 松本慧子様 81歳

※注；計画する行事を含む事業については、別途「個別事業実施計画書」も作成すること。

開催日	研修内容	場所	参加職員
4月	感染対策について	やくしの里リビング	職員全員
5月	身体拘束	やくしの里リビング	職員全員
6月	認知症	やくしの里リビング	職員全員
8月	身体拘束	やくしの里リビング	職員全員
10月	認知症	やくしの里リビング	職員全員
11月	身体拘束	やくしの里リビング	職員全員
12月	感染：シミュレーション	やくしの里リビング	職員全員
1月	認知症	やくしの里リビング	職員全員
2月	身体拘束	やくしの里リビング	職員全員
4月～3月	接遇：ミーティング時に言葉遣いの振り返り	やくしの里リビング	職員全員

開催日	研修名	主催	会場	参加職員	参加費(上段) 交通費等(下段) (1人当たり)
6月	認知症ケア	公益財団法人 介護労働安定センター	Webセミナー	石垣初江	3,000円 ----- 0円
10月	認知症の方への介護技術	公益財団法人 介護労働安定センター	Webセミナー	吉野真由美	3,000円 ----- 0円
11月	虐待防止の早期発見と 対応策・体制整備	公益財団法人 介護労働安定センター	Webセミナー	福井早苗	3,000円 ----- 0円

た か し な の 里

目 標	計 画	方 法・取 組	備考
1. フレイル予防の実施（見える化）	1. 筋力の基本能力が見える化し、状態を維持、向上できるよう取り組む	① 3か月に1回の頻度で身体状況並びに精神状況や認知症の程度を測定し、LIFEに報告する。また、LIFEからのフィードバックを活用し、個々の状態に合った個別の介護・訓練計画を立案し、実行する ② これまで行っている体操等は継続し、新たに個別で訓練するメニューや時間を設ける	
2. 認知症・障がいを持つ方への対応	1. 地域の支援や資源を活用しその人らしく安心安全で穏やかに過ごしていただけるよう支援する	① 認知症の理解を深め、その人にあつた対応を行う。そのための勉強会を年2回実施し、年度を通しての成果の発表会を開催する ② 地域での生活を想定した生活状況を念頭に、必要な援助を行う	
3. 利用者支援のための職員の資質向上と連携を強化する	1. 職員個々のスキルを上げ利用者が安全安心して過ごしていただけるようにする	① 接遇やマナー、尊厳、高齢者虐待、身体拘束廃止を目的に勉強会を行い、具体的な行動計画を年度内に定める ② 生産性向上委員会を新設し、業務の統一や効率化について検討し、実践する	
4. 感染症や災害への対応力強化	1. 災害や感染症が発生した時、慌てることなく適切な対応が出来るよう計画的な訓練や研修を実践する	① 業務継続計画に基づき、年間を通して勉強会や実地訓練を行う。 ② 必要と思われる物品を買い揃える	

令和6年度 たかしなの里年間稼働率目標等及び対策

1 年間目標稼働率

$$\frac{\text{登録者数}}{\text{(延べ登録者数)}} = \frac{92.0\% \text{ (請求ベース) (月平均23名)}}{276 \text{ 人}}$$

(登録定員 25 人として、年間延べ 300 人で 100%)

2 介護保険法及び介護保険報酬改定及び加算追加予定項目等への対応

新たに追加する加算はなし

3 年間目標稼働率・加算項目の追加を達成するための具体的な方法

(箇条書きで、簡潔かつ根拠のある説明を記載のこと)

- ・病院及び居宅介護支援事業所への空き情報の提供
- ・地域各種団体との情報交換

令和6年度年間行事等事業計画書

部署名：たかしなの里

月	事業（行事）	地域交流	ボランティア・見学
4月	お花見ドライブ		
5月	新緑ドライブ 避難訓練（夜間設定）	運営推進会議	
6月	露取り 菖蒲湯		
7月	七夕まつり シェイクアウト 安浄寺お参り	運営推進会議	
8月	たかしなの里交流会		高階まつり見学
9月	敬老会 足湯ドライブ おはぎ作り	運営推進会議	
10月	避難訓練（日中）	池崎町秋の大祭	徳田まつり見学
11月	紅葉ドライブ	運営推進会議	高階芸能祭
12月	ゆず湯 クリスマス会 餅つき		
1月	正月遊び 法話（安浄寺住職）	運営推進会議	
2月	節分		
3月		運営推進会議	

※注；計画する行事を含む事業については、別途「個別事業実施計画書」も作成すること。

令和6年度 施設内研修予定表

部署 たかしなの里

開催日	研修内容	場所	参加職員
4月	接遇とマナー	たかしなの里事務室	全職員
5月・2月	身体拘束廃止に向けて	〃	全職員
6月・	基本理念と権利擁護	〃	全職員
7月・1月	認知症の理解	〃	全職員
9月	高齢者虐待防止について	〃	全職員
10月	感染症の基礎知識	〃	全職員
11月	自然災害発生時の対応について	〃	全職員
12月	感染症発生時の対応について	〃	全職員

令和6年度 施設外研修参加予定表

部署 たかしなの里

開催日	研修名	主催	会場	参加職員	参加費(上段) 交通費等(下段) (1人当たり)
R6. 4. 11～26	接遇とマナー	介護労働安定センター	Web	白山 千亜希 他	-----
R6. 11	感染予防について	能登中部保健所	七尾市内 (Web)	看護職員	-----
R6. 12	養介護高齢者施設虐待防止推進員研修	石川県	七尾市内	介護職員	-----
	身体拘束廃止に向けて	介護労働安定センター	Web	介護職員	-----
	認知症の理解	介護労働安定センター	Web	介護職員	-----

栄 養 課

目 標	計 画	方 法・取 組	備考
I. フレイル予防の実施(見える化)	利用者様一人ひとりに合ったお食事を提供することで、必要栄養量を補給し、栄養状態の維持・改善を図る。	(1) 低栄養状態のリスクレベルを共有し、多職種での食事観察を強化する。3ヵ月毎に栄養アセスメント結果を記録する。 (2) 「い〜とみる®」結果をもとに、対応策を検討し、職員へ周知する。必要時、医師・歯科医師へ状態報告し、助言・指導を受ける。 (3) 多職種連携。 ・入所:対象者(各階 5名)の身体状況(口腔、BMI、活動、上腕筋面積等)に応じて食事内容調整。 ・通所:摂取量低下および2kg以上体重減少している方の情報共有と食事内容調整。 ・やくしの里:栄養や食生活に関する情報を提供。	
II. 認知症・障がいを持つ方への対応	楽しくおいしく食事していただき、フレイル予防につなげる。	(1) 利用者様の満足度やニーズを把握するため、年2回の嗜好調査を継続。 (2) ご利用者・ご家族の意向を確認し、可能な限り対応する。 (3) 季節感のあるお食事提供とイベント食の立案・実施、クッキングの継続。	
III. 利用者支援のための職員の資質向上と(ア)連携強化	スムーズな業務遂行と資質向上に努め、安心・安全・おいしい食事作りを通し、利用者様の健康状態を維持する。	(1) 円滑なコミュニケーションで、職員間の連携を強化する。(3ヵ月毎に目標に対して自己評価し、点数化する。) (2) 研修会への参加と部署内研修の実施。	
IV. 感染症や災害への対応力強化	能登半島地震の経験を活かし、感染症や災害時の対応力を身につける。	(1) 緊急時の食事提供マニュアルの見直しと職員への周知。 (2) 各種訓練への参加。	

令和6年度 施設内研修予定表

部署 栄養課

開催日	研修内容	場所	参加職員
4月	フレイル予防	栄養課	栄養課職員
5月	ユマニチュードについて（タブレット視聴）	入所2階または栄養課	栄養課職員
6月	手洗い・食中毒	栄養課	栄養課職員
7月	職員倫理（タブレット視聴）	入所2階または栄養課	栄養課職員
8～10月	災害時の対応	栄養課	栄養課職員
11～1月	食形態	栄養課	栄養課職員

令和6年度 施設外研修参加予定表

部署 栄養課

開催日	研修名	主催	会場	参加職員	参加費(上段) 交通費等(下段) (1人当たり)
未定	生涯学習研修会	石川県栄養士会	未定	管理栄養士	-----
未定	管内栄養士研修会	能登中部保健センター	未定	管理栄養士	-----
未定	石川県災害支援栄養士研修会	石川県栄養士会	未定	管理栄養士	-----
未定	摂食嚥下に関する研修会	石川県栄養士会 食品会社 他	未定	管理栄養士	-----

